

## 誰かが私の「話をする」

### ネパール、グルン村落におけるゴシップと「反一排除」の倫理

吉元菜々子（首都大学東京）

#### 1. はじめに

「グルンは一人でいないときは常に幸せなのである」[Pinède 1966(1993) : 119]。これはグルンに関する最初の民族誌において、フランスの人類学者ベルナール・ピネードが記した一節である。本発表ではこのピネードの何気ない言葉と発表者のフィールドでの経験を手がかりに、グルンの人びとにとって、人と共にいるということはいかなる価値を持つのか、そして、人と共にいるということはいかにして可能となっているのかを検討する。特に焦点を当てるのが、グルン語において「ターラム（話をする）」と表現されるゴシップにまつわる事例である。

#### 2. 調和と抑圧

グルンとは中央ネパールの中山間地帯を主な居住地とする人々である。かつての村落研究から近年の都市移住民に関する研究に至るまで、グルン研究では、互酬性や気前のよさ、社会的な調和の重視といったグルン社会の原理が指摘されてきた。グルン社会において最も重要視されるのは、他者とのつながりやコミュニティであり、それが人びとのセキュリティの基盤となっているのだということがこれまで論じられてきたのである。

その一方で、そのような集団主義的な原理が人びとを拘束する社会的な圧力となっているとも指摘されてきた。互酬性や気前のよさ、社会的な調和を重視するということは、蓄積した富の共有や際限のない気前のよさと支援を求められるということであり、また、個人の感情や意思にかかわらずその場の調和を維持するような状況に適したふるまいを求められるのだ。

このような解釈から、一部の民族誌家らはグルン社会には他者への不信と自らの過失への恐怖心が蔓延していると指摘した[McHugh 1989 ; Pettigrew 2008]。協力的で調和的なコミュニティは、個人における感情と実際のふるまいとの乖離を生み出し、そのために人びとは他者の言葉を疑い、ふるまいを注意深く観察する。それと同時に人びとは、社会的な要求にうまく応えることができないのではないかと恐怖心を抱き、自らに対する周囲の評価を気にかける。

#### 3. 評価への恐怖：「話をする」

グルン研究において指摘されてきた他者への不信と自らの過失に対する恐怖心は、発表者の調査村で「ターラム（*tāā lamu*）」という言葉が発せられる日常的な場面において顕在化する。「ターラム」とは、直訳すれば「話をする」となり、「ター（話）」という語

自体に否定的な意味合いはない。しかしながら、たとえば、「村では女性がお酒を飲むと、人が『話をする』』といった発話にみられるように、「話をする」という言葉は、文脈により悪いうわさ話をする、もしくは陰口を言うといった否定的なニュアンスを持つものとなる。人びとは「（誰かが自分に関する）『話をする』のが怖い」と口にし、自らの行動に対する周囲の反応を気にかける。「話をする」ことへの恐怖とは、自らに関する周囲の評価への恐怖であり、その恐怖は規範から逸脱するような行動の抑制につながっている。

#### 4. 共にいることの倫理

文脈に応じて陰口を言うという行為を指し示す「話をする」という言語行為は、いくつかの点においてゴシップの特徴を持ったものである[Besnier 2009 : 13]。しかしながら、時にその標的となった人物の周縁性を強化し、地位の失脚を招くというゴシップの持つ「攻撃性」[ギルモア 1998 : 134-135]は、グルンの間では抑制されている。人びとは確かに、自らに関するゴシップを恐れている。しかし、事例で見ていくように、実際に自らに関するゴシップがささやかれたとしても、対象となった人物と周囲の人びととの間に重大に亀裂が生じることはない。というのもグルンにおけるゴシップとは、その対象となる人のやり方を非難するものであって、決してその対象者自身を排除する性質のものではないからである。本発表では、グルンにおけるゴシップの裏側には、先行研究において指摘されてきた他者への不信が存在すると同時に、決して人を排除しないという「反一排除」の倫理が存在することを論じる。

#### 【参考文献】

- Besnier, Niko 2009 *Gossip and the Everyday Production of Politics*. University of Hawai'i Press.
- McHugh, Ernestine L. 1989 Concepts of the Person among Gurungs of Nepal. *American Ethnologist* 16(1): 75-86.
- Pettigrew, Judith 2008 Guns, Kinship, and Fear: Maoists among the Tamu-mai (Gurungs). In *Resistance and the State: Nepalese Experiences*. David N. Gellner (ed.), pp.305-325. Social Science Press.
- Pignède, Bernard 1993(1966) *The Gurungs: a Himalayan Population of Nepal*. Ratna Pustak Bhandar.
- ギルモア、デイヴィッド 1998 『攻撃の人類学——ことば・まなざし・セクシュアリティ』 芝絃子（訳）、藤原書店。

キーワード グルン、ゴシップ、「反一排除」、恐怖、共同体